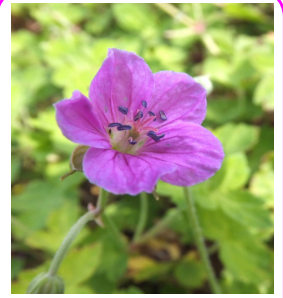


ぎやらりー



NO.68

2014年10月号

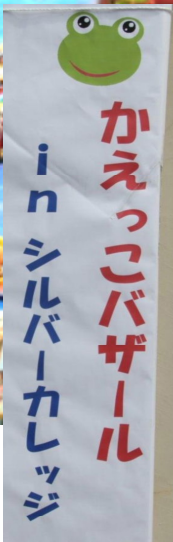


●花の村内散歩
現の証拠 (木村成男撮影)

編集・発行 NPO法人グループわ (堺 汎) ホームページ <http://www.wa-net.jp>
〒651-1102 神戸市北区しあわせの村シルバーカレッジ内 TEL078-743-8101 FAX743-3830



かえっこバザールでお気に入りのおもちゃをさがす子どもたち



取り合い、おもしろかった

大好きなおもちゃをゲット！。人気の高い「かえっこバザール」が、9月7日午後、カレッジホールで開かれ、400人を超す子ども、パパ、ママさんらで大にぎわい。〈わ〉と常盤大学の共催。ゲーム機、おもちゃ、キャラクター、縫いぐるみ、マンガなどの本が山積み。ホールが狭く見えるほどでした。

子どもたちはお気に入りの品探しに夢中。ある男の子はリモコンのクワガタを手に入れ「奪い合いでおもしろかった。来年もこような」と気の早いこと。オークションでは、650点もの高値で競り落とした子も。

ホールの壁際には、うらしまたろう、カーネーション、むかしあそび研究会と本部がブースを設置。神戸芸術工科大はことし、初めて参加、「おばば、おじじレター大作戦」と名付け、子どもらにハガキに絵を描いてもらい、投函するとのこと。〈わ〉関係者40人近く、常盤大15人のほか、子どもたちもワークショップなどの世話役をつとめました。(13面に関連記事 取材・写真=永野 知己)



ボランティアの輪をひろげよう

68号の内容

戦争の悲劇 子どもに語り継ぎ14年

2~5面

サポート募金を募る 6面
活動・取材レポート 7~9面
ボランティア最前線 絵手紙 11面

ボランティアの心 12面
WAからのお知らせ 14面
10~12月のイベント予定 15面

戦争の悲劇 子供たちに語り継ぐ

310万人もの尊い命が奪われた太平洋戦争——子どもたちへ、その戦争の悲惨さや平和の尊さを語り継ごうと、グループ〈わ〉が「戦争の語り部」活動を始めて14年になります。これまで訪問した小学校は42校。今年度は初めて中学校へも出向きました。語り部の中心メンバーは80歳を超え、「この先どのような形で継続していったらいいのか。後継者は見つかるのか」。大きな不安をかかえて活動を続けていますが、グループ〈わ〉にとっても大きな課題となってきています。そこで、会員の皆さんに語り部活動の現状を知ってもらおうと誌上座談会を開催しました。(広報・井口久美子、永野知己)

語り部6人、平和の尊さを訴え14年



渡辺寛治(国10)
81歳(灘区会)



濱岡吉孝(福4)
82歳(西区会)



西阪順三(生8)
81歳(兵庫区会)



村田洋一(一般)
81歳(長田区会)



米倉澄子(一般)
78歳(東灘区会)



加藤勇治(美10)
72歳(北区会)

一番怖かった体験

——一番怖かった戦争体験は。

西阪 昭和20年6月5日の神戸大空襲です。自宅が全焼。母と姉2人が亡くなり、父は顔にひどい火傷を負いました。私は、燃え盛る火の海を逃げ惑い九死に一生を得ましたが、下の姉の黒焦げになった遺体を発見し、自宅の焼け跡で茶毘に付したことは一生忘れられません。

渡辺 6月5日の大空襲で自宅は焼失。安全な場所を求めて家族と市内の防空壕を転々としながら、火の中を逃げ惑いました。家族は全員無事でしたが、叔母宅にいた祖父が亡くなりました。

米倉 その空襲で灘区の自宅が全焼。バラックで家族9人、生きるのが精いっぱいでした。

村田 やはり6月5日の神戸大空襲ですね。家中のガラスが破損。私自身も米軍P51機に追いつまされたことや、空襲の後、地下壕で亡くなった人の遺体が、マネキン人形のように山積みされていた光景は、今でも目に焼き付いています。

濱岡 学徒動員で飛行場の整備へ行っている時、グラマン戦闘機の機銃掃射に遭い九死に一生の体験をしたことです。戦後もしばしば夢を見ては飛び起きることがありました。

加藤 私は幼かったこともあり、悲惨な体験は少ないのですが、疎開先が六甲山の後背地だったので、空襲で燃え上がった神戸市街地の上空が赤く



19年8月学童疎開に出発、三宮で見送る父母たち

染まった光景や、防空壕の暗い夜の記憶が僅かに残っています。また、終戦の直前に父親がマニラで戦死しました。

集団で学童疎開

——学童疎開はいつ、どこへ？

渡辺 国民学校の6年生で三宮に住んでいました。疎開の対象は3年生から6年生まで。私は、3年生と一緒に兵庫県印南郡(現加古川市)へ、19年8月～20年3月まで疎開していました。

米倉 私は、渡辺さんより3学年下で自宅は灘区でした。19年9月に淡路島へ疎開しましたが、空襲が激しくなり、20年6月には出石へ移動。10月末まで神戸に帰れませんでした。不潔な環境と栄養失調で皮膚病に悩まされました。

濱岡 大変な状況でした。私は学童疎開の経験はありませんが、19年秋(旧制中1年)、父を上海

神戸大空襲…火の海を逃げ惑った

に残し着の身着のまま、母の郷里の小野市へ。引揚者としての辛酸を数多く経験しました。

西阪 私は生田区に居住。旧制中学の1年生になっていましたが、学童疎開が始まった年は国民学校6年でしたので、19年8月～20年3月まで岡山県御津郡へ集団疎開。疎開先では、生徒60人に先生が1人で、寺の住職の説教を聞いたり、洗濯、風呂の水汲み、食料の買い出しをする毎日でした。

村田 西阪さんと同じ旧制中学1年生で、灘区に住んでいました。小6の8か月間、印南郡へ疎開しましたが、毎日ひもじい思いとノミ、シラミに悩まされ、ほんとうに辛かったですね。

加藤 皆さんより10歳近く下で、終戦時は3歳9か月でした。18年大阪市から神戸市北区（母の実家）へ戦時疎開。その間に大阪の自宅は空襲で焼失。成人するまで母の実家で過ごしました。

衣食は全て配給制度

――当時の生活状況は。

米倉 疎開先（寺）では、毎日天井が映るほど薄い雑炊。口に入るものは何でも食べました。国民学校入学と同時に、少国民としての教育を受けました。

西阪 私も、明けても暮れても雑炊と菜っ葉汁。疎開先では、カエルやバッタを取って串焼きにして食べました。自宅では、夜は何時でも飛びだせ



神戸大空襲で焼け野原になった神戸の街

るよう着の身着のまま。母親は食料を集めるのに精いっぱい状況で、学校へ行ってもまともな勉強はありませんでした。

渡辺 そうでした。主食は配給制（1日1人、米2合1勺）となり、学校も軍事一色。天皇陛下に忠誠を尽くすことを基本にした教育でした。

村田 その米の配給もだんだん雀の涙ほどになり、豆かす、トウモロコシ粉が主となっていきました。入学した中学校でも、再三の警報発令で登校できず、勉強ができず悔しい思いをしました。



家財道具を担いで避難する神戸市民

濱岡 衣食に関わるあらゆるものが配給制となり、敗戦近くなると米が不足。イモ、コーリヤン、トウモロコシなどになりました。「欲しがりません勝つまでは」をモットーに我慢を強いられ、私たちは、いつも空きっ腹を抱えていました。

紙芝居が唯一の楽しみ

――神戸の街の様子は。

西阪 商店には品物がなく開店休業状態で、百貨店も陳列してあっても配給切符が必要でした。駄菓子屋もお菓子はなく、塗り絵やベッタンなど遊び道具ばかり。週に1回紙芝居がやって来て、酢昆布を買って見るのが唯一の楽しみでした。

渡辺 大丸が近くにあったので屋上の遊戯施設によく連れて行ってもらいました。駄菓子屋では、一銭で飴や酢昆布を買い、ベッタンやラムネ玉で

◆太平洋戦争 神戸大空襲

昭和16年（1941年）12月8日、日本軍の真珠湾攻撃で日米開戦。太平洋戦争が勃発。20年8月6日広島に、9日に長崎に原爆が投下され8月15日に日本はポツダム宣言を受諾し無条件降伏した。この間3年9か月。相次ぐ本土への空襲で日本の92の大中小都市は壊滅。この大戦で軍人・民間人など310万人もの命が奪われた。

神戸空襲はB29爆撃機により17年4月～20年8月までに計82日、128回。15万戸が焼失、15万人が負傷、8800人が犠牲になった。終戦半年前に集中しており、2月4日、3月17日、5月11日、6月5日、8月6日の空襲を神戸大空襲という（「神戸市史」）。東京大空襲の2倍、3000トンの焼夷弾が投下されたといわれる。

「wikipedia」など参照。

学童疎開…カエルもバツタも食べた



平成26年8月 熱心に耳を傾ける西区西神中の生徒(永野撮影)

遊んでいた記憶があります。

濱岡 20年6月5日の神戸大空襲で、百貨店や元町など市内の商店街は壊滅状態になり、駄菓子屋も消滅してしまいました。

真剣に聞く子供たち

——子どもたちの反応は。

村田 身近な話の中から、空襲の怖さ、生活の苦しさを感じてくれているようです。

渡辺 私語もなく、懸命に耳を傾けてくれる態度に感心しています。

西阪 語り部を始めた頃は、当時を思い浮かべて私も涙声になってしまい、泣き出す子もいて胸がいっぱいになりました。

濱岡 どの学校の子どもたちも110分もの間、真剣に聞いてくれ話し甲斐があります。

加藤 本当にそうです。私も、子どもたちの目の輝きを励みにしています。

米倉 ほとんどの子どもたちは、「空襲は広島、長崎だけかと思った。神戸の街が焼け野原になったことは初めて知った」といいます。

語り部となって

——皆さんが語り部となったきっかけは。

加藤 私は先の大戦で父親を失い、疎開生活(母の実家)を送ることになったので、その体験を伝えたいと思い、自ら参加しました。

濱岡 シルバーカレッジ在学中(平成12年11月頃)

に、母校である東須磨小学校から、依頼があったので、クラスメート2人に協力を求めて始めました。今後も、身体が続く限り続けていきたいと思っています。

西阪 カレッジ卒業時、当時の学習支援委員会の中沢代表に勧められ参加しました。

渡辺 「昔遊び研究会」での活動を通じて参加するようになりました。

村田 60年頃から自分史を書き始め、「集団疎開」をまとめていたところ、これを見た友人が参加しないかと誘ってくれました。

米倉 私は、新聞への投稿(学童疎開)がきっかけで、小学校から依頼を受けました。——子どもたちへは、どのような話を。

濱岡 現在は、テーマ別に担当を決めています。

①太平洋戦争中の神戸大空襲(濱岡) ②大空襲下の体験談(西阪) ③学童集団疎開の体験談(村田・米倉) ④質疑、応答(渡辺) ⑤映像操作(加藤)となっています。



疎開先で、子どもたちはノミやシラミに悩まされた

村田 私は学童疎開が担当なので、疎開先のお寺ではお経読み、稲刈り、風呂炊きが仕事であり、空腹やノミ・シラミ、いじめに苦しんだことを話しています。

西阪 現在の子どもたちは、戦争中の話をしても絵空事になるので、出来るだけ戦時中の写真を集めて画像で訴えるようにしています。

——子どもたちにぜひ、伝えたいことは。

西阪 この戦争によって多くの犠牲者を出したが、そのおかげで、今日の平和があることを話しています。

渡辺 次世代、その次の世代に戦争の残酷さとその愚行の極みを語り継ぐことによって、平和の尊さを噛みしめてもらいたい。平和なくして未来に

戦後69年薄れる記憶…語り部継続を



㊦ モンペをはき救護袋を持つ人形
㊧ は防空頭巾を被る米倉さん



希望はないということを、常に考えて欲しいと思います。

加藤 私も同様です。私たちの体験談から戦争の悲惨さを実感してもらうことに尽きますね。

米倉 戦争で多くの若者が、家族のことを思いながら死んでいったことを忘れてはなりません。その人たちが築いた、今の平和を大切に守って欲しいと願っています。

村田 物がなくても、たくましく生きてゆくことの大切さを訴えたいと思っています。

濱岡 戦争は、不幸や悲しみしか生まないが、平和は、幸せや喜びをもたらしてくれます。子どもたちには、思いやりと命の大切さを考えられる人に育って欲しい、と願っています。

空襲体験者はぜひ、仲間に

——語り部を継続していくための方策は。

渡辺 語り部活動を収めたビデオの活用と、新たな人にも参加をお願いしたいですね。学習支援委員会と協働で、平和学習を盛り上げるキャンペーンを企画してはどうでしょう。

西阪 カレッジの卒業生にも空襲体験者がいると思うので、仲間に加わってほしいですね。

濱岡 語り部の有力候補は、小中学校の先生方であると思っています。末長く活動できるよう、教委や関係機関に〈わ〉から働きかけをお願いしたい。現在使用している「神戸大空襲・学童疎開」のシナリオ、映像もリニューアルして、教材ビデオを作成して欲しいと考えています。

村田 そうです。活動先の開拓も必要でしょうね。

加藤 そうですね。合わせて、語り部が高齢化していくため、語り部活動をビデオ教材にすることは急務でしょう。

座談会を終えて

戦闘員でもない市民や子供たちが、こんな悲惨な状況に陥るとは…戦後生まれの私にはとてもショックでした。「2度と戦争をしてはいけない」という語り部の方たちの願いをぜひ、継続して次世代に伝えねばと思いました。(井口)

戦争の怖さ 伝わってきた

◎井吹東小6年生の感想

▽戦争のことがピンとこない世の中だが、実際の怖さが伝わってきた
▽それほど、辛く、悲しい思いをすることは思ってもいなかった
▽静かに勉強ができてご飯がたくさん食べられて、ニコニコ笑っておられるのが、すごく幸せなんだということがわかった
▽聞いているだけで怖くてゾクッとし体が震えた
▽戦争は絶対にしてはいけない

◎糀台小6年生の感想

▽焼夷弾や原子爆弾で一瞬のうちにたくさんの命が奪われ、たくさんの物を破壊されたなんてー。戦争中心の世の中にびっくりした
▽親と離れ離れになり、ノミ、シラミ、ダニに苦しむ疎開生活はとても辛かっただろう。私なら神戸に逃げ帰っていた
▽B29や焼夷弾の構造を図や絵で説明していただき、とても分かりやすかった
▽戦争は深い悲しみと憎しみをもたらすだけ。子ども、女性、お年寄りが無差別にやられたのを初めて知った

◎先生の感想

▽児童の祖父母も戦後生まれでナマの戦争体験は聞けない。教師にも良い勉強になった
▽戦争を体験した人にしか語れない話に、戦争の悲惨さを学び、命の大切さを感じたと思う

【文中の写真・イラスト】

写真はbing.com/imagesより引用しました。イラストは語り部村田洋一氏の「集団疎開の記憶」から転載しました。

●「語り部活動」に興味、関心をお持ちのカレッジ関係者の皆さん、グループ〈わ〉の学習支援担当・俵までご連絡(743-8101)下さい。

H25年度「戦争体験 語り部活動感想文」を、小冊子に纏めました。カレッジ図書室に置いてありますので、ご覧ください。(戦争の語り部チーム)

女川町長招き震災シンポジウム開催

「阪神から東北へ——交流・連帯・絆」をテーマにした震災支援シンポジウムを、来年（2015年）1月16日（金）、カレッジホールでグループ〈わ〉と福祉振興協会が共同で開催します。第5次東北支援隊の報告会を兼ね、KSCのボランティア活動の原点となった阪神大震災を振り返り、今後の災害支援活動を考えようという趣旨です。特別ゲストに女川町長の須田善明氏を招いてトークショーを開くほか、カレッジ1期生らの体験報告、第5次支援メンバーの報告、記録ビデオ上映、パネル写真展、東北物産販売などを予定しています。（東北プロジェクト 南形徹）

1月16日カレッジで

20年の節目を迎える阪神淡路大震災。シルバーカレッジも全校挙げて救援活動に奮闘、〈ボランティア元年〉ともいわれました。キャンパスは支援物資の集積場になり、村内の温泉には半年間で13万人の市民が詰めかけました。東日本大震災からの復興が進む女川町は、住宅再建や地盤嵩上げ工事の真ただ中にあります。

シンポジウムは神戸と女川の復興に焦点をあて、須田町長、福祉振興協会の吾郷専務理事、〈わ〉の堺理事長らが復興の歩みについて語ります。

当時、被災した村内で活動した1・2期生や協会の職員からは貴重な体験報告があります。第5次隊のメンバーによる発表やパフォーマンスもあり、毎年好評の笹蒲鉾など東北の物産販売、パネル写真も展示します。

これまで東北支援隊の報告会はグループ〈わ〉の単独開催でしたが、今回は振興協会と合同で実施することになりました。シンポジウムの詳しい内容は11月初旬に発表します。

●準備急ぐ 震災シンポジウムの準備は東北プロジェクトのメンバーで進めています。▽堺汎・古後健一・海野龍英・四方久幸・内村ナナ子・南形徹・小林健二・波多野武郎・大澤貞男・芦田義和・川毛総子・橋野美子

子供たちからイラスト礼状

「ぶんぶんゴマ とても楽しかったです」。7月3・4日に訪問した女川第四保育所、名取が丘児童センターの子供たちからイラスト入りのカラフルな礼状が届きました。「いろいろな遊びを教えてください感謝しています。昔遊びセットのお土産に子供たちは大喜びでした」との職員一同のメッセージが添えられていました。3日の女川小訪問の様子は地元紙「石巻かほく新報」にも写真入りで大きく取り上げられました。

（⑥の写真は7月4日、名取が丘児童センターで）

●サポート募金賛同者（7月1日～9月30日）丸山信司（生5）1600円、宮城智子（音3）3千円、東本孝次（生14）千円、高橋孝男（国9）千円、瀧本雄子（生17）3千円、橋野美子（一般）5500円＝計15,100円



サポート募金継続のお願い

理事長 堺 汎

グループ〈わ〉の東北支援活動は4年目を迎え、この7月には第5次支援チーム10人を女川へ派遣。現地の方々と親しく交流することができました。これも皆さまのご支援のおかげと感謝しております。第5次の支援活動は、福祉医療機構からの助成金がストップしたため、約95万円の経費はサポート募金を充当し実施しました。

一方、小学校での学習支援活動（交通費）、伝統文化体験講座・各種の体験教室の経費も、これまで、福祉助成金で賄ってきましたが、今年度はこれらを打ち切らざるをえない事態となりました。こうした活動は、グループ〈わ〉として地域へ浸透を図るまたとない機会でしたので、なんとか継続の道はないか、と検討を重ね、サポート募金の使途を、東北支援から他のボランティア活動にも広げることで当面の急場をしのぐことにしました。

とは申しても、サポート募金の残高は10万円に満たず、学習支援などへの補助を継続しようとすれば到底足りません。東北支援活動も、ぜひとも継続したいと思っております。

ボランティア活動の資金確保には執行部一同、鋭意努力する所存ですが、この苦境を会員の皆さまにも知っていただき、サポート募金に今後ともご支援・ご協力をお願いする次第です。

活動レポート

バーニング講座大賑わい

「電熱ペンで文字や絵を描くバーニングアート」講座が8月6日、地域人材支援センター（長田区）で開催され、抽選に当たった30人の親子連れで賑わいました。スタッフは、花実の森PJ（菅田忠志代表・生11）の3人。

材料は、はがき大のシナの木です。クワガタを描く子、犬を描く子、かわいい女の子を描く子、親も子も無心にペンを動かします。クワガタの絵のそばには「暑中おみまい申し上げます」と添えられています。「これ切手貼って先生にだすねん。」



バーニングアートに挑戦する子どもたち 北村洋撮影

誇らしげに5年生の男の子が話してくれました。もらった先生は大喜びでしょう。

「子供より私の方がはまってしまいました」とお母さん。とても上手に表札ができていました。描きあがった作品は、参加者全員で発表しあい、個性豊かな作品に「上手やん、かわいい」と笑顔と拍手の中、それぞれの思い出もしっかり記憶にバーニングし、お土産にして持ち帰ってもらいました。

（花実の森 橋野美子・一般）

篠山へマジックの出前公演

KSCの卒業生たちがお米や野菜作りをしている篠山市真南条上営農組合（59戸）の敬老会（9月15日）に、マジッククラブの13期メンバー4人が招かれ”出前公演”。地元のシルバー40人と交歓会を楽しんできました（＝写真）。KSCの4人はプロの音楽グループ、神戸大生らの余興に交じってハンカチ、お札、トランプ、卵を使った自慢のマジックを次々と披露、拍手喝采を浴びました。4人は大西みどり、黒本茂弘、大澤貞男さんと南形です。

真南条上地区は神戸市内から車で約1時間。JR南矢代駅近く。現在、ここで活動しているのは木村民亮グループ、かえるの会（黒田忠美代表）、村尾グループの3つ。生環のG学習がきっかけで休耕



地などを借りて7、8年前から農作業を続け、地元にとけ込んでいます。この日の出演も、その縁で実現したものです。休憩時には、木村さんの案内で、実をつけ始めた黒豆畑を見学し、特産の赤ジャガイモを使ったアイスクリームを試食しました。

一方、13日にはマジッククラブの森田明朗代表ら3人が、流通科学大学（西区）の公開講座「ネアカ塾」に講師として招かれ、マジックの実演と指導をしてきました。学生や市民ら27人が受講。トリックの話や歴史などに聞き入り、マジック体験では懸命に取り組んでいました。同日は、料理・健康・法律・芸能など31講座があり、終日市民でにぎわいました。

（南形公子・福13 北区会）

中央区会 夏祭りをサポート

8月27日、中央区にある特養「真愛ホーム」（定員50人）の夏祭りに、区会のメンバー8人が屋台のボランティアで参加。焼きそば・たこ焼き・焼き鳥・飲み物など「はい、いかがですか」と声を張り上げ売りまくりました。



車いすの入居者は、学生ボランティアが付添い、ショッピング。家族と一緒にテーブルを囲んでぱくついています。ゲームコーナーも大人気。綱引きや輪投げで景品が当たると「やった!」。歓声を上げて大はしゃぎです。

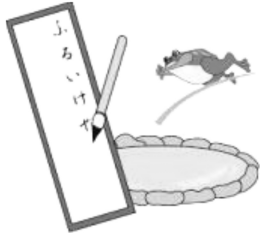
最後は盆踊りタイム。阿波踊りと炭坑節…囃子にのって家族・職員、車いすも元気いっぱい。大勢の人が輪に加わって楽しく踊り、おおきな輪が最高潮に達しお開きです。

「忙しかったけど、楽しかった。これからも、健康でボランティア活動に参加していけたら、幸せだな…」と思いつつ、会場を後にしました。

（甲田節子・国10 中央区会）

灘句会 指折って五七五や秋暑し

灘区の定例会は50名の会員のうち10名前後の参加者でボランティア活動を発表しあったり地域での活動、イベント、健康へのアドバイスなど話合っています。その中で昨年9月からカレッジ句会の講師を始めたことを話した時、灘の区会でも俳句を詠もう・・ということになり今では1人3句、4句と出句され時間内では収まらないほどの盛り上がりようです。



8月の句を披露します。

平和とは生きてこそ在り蝉しぐれ	飯井冴子
鶏頭の日暮れても紅矢はず	木下完治
柚谷に底抜けの降り秋の雨	福島康弘
六甲の尾根輝くや夏惜しむ	渡辺寛治

約束ごとは①季語を入れる、②五七五の定型に調える、の2つだけです。

口語体でも文語体でもよいのです。1句の中で混じり合わないように…。身の周りの自然に目を向け生き物の在りように意識を持ち1日を充実したものにしてください。人生経験豊富な方々ばかり、句材には事欠かない強みがあります。

次の定例会にどんな出句があるか楽しみです。
(木原愛子・福1 灘区会)

野鳥と自然観察会 研修会開催

野鳥と自然観察会は8月28日、生環の授業でおなじみの山根みどり氏を迎えて研修会を開催(写真⑩=野見喜安昭撮影)。31人が受講しました。環境省の野鳥調査員として活動している氏には、私たちが双眼鏡を通して見ている鳥の世界とは別の姿が見えているようで、会員にとっては興味深い体験談を聴くことができました。



「景観の確保のためであっても、繁殖期に草刈りをするのは野鳥の殺傷や損傷を禁じた鳥獣保護法に抵触する可能性がある(東京新聞 2014. 8. 14)」との言及もあり、しあわせの村内で実施されている過剰な草刈りも気になりました。生き物との共存は言うほど簡単ではないようです。

(堀池邦康・生17 長田区会)

垂水会 東灘・御影地区歴史探訪

梅雨の合間の6月10日、垂水会歴史探訪を開催。1期生から、18期までの有志総勢30名弱が参加しました。午前9時に阪急御影に集合し、3グループに分かれて出発。東灘ボランティアガイドの案内で、深田公園から見る小原流家元邸、光悦寺垣(竹垣)の道、小磯良平の絵も展示されている世良美術館、八咫鳥がシンボルと言われる弓弦羽神社、香雪美術館の石垣を見ながら菅原道真が祭神の網敷天満宮、そして石屋川鉄道トンネル跡の南公園で昼食。



御影駅前ガイドの説明を聞くメンバー

あと、御影公会堂から徳川道起点。「沢の井」の霊泉は神功皇后もお化粧水に使われた(由来説明板)。最後は阪神御影駅で無事解散しました。

深田池や弓弦神社は、近世までの豊かな農村の名残を残しているようです。東灘・御影地区は旧さと新しさを持った豊かな活気のある町という印象でした。
(板野武一・生16 垂水区会)

ホームページ内容一新

7月よりグループ<わ>のホームページ(HP)を大きく衣替えしています。新しい多くの情報を載せ、見やすく、楽しいHPにすることを目指しています。

トップページはお知らせコーナーと新着情報とし更新個所を明確に表示しました。概要、本部活動、東北支援のページを新規に設けました。各ページ毎に、関連するぎゃらりーわの記事を見られるようにしました。各ページにグループや活動の紹介、イベントの開催案内、記録なども掲載して、内容が豊富なHPにすることを考えています。

HPをより良いものにするために、会員皆さまからのグループやボランティア活動についての情報提供をお願い致します。<わ>のHPは、インターネット検索にて 検索欄にグループわと打ち込み検索して、検索結果の上部に表示されるグループわをクリックするだけで、HPを開くことができます。(広報HP担当・岡本紘一)

親切・丁寧 お買いものサポート

〈わ〉のお買い物サポーターには、ハートフル、親切、丁寧な対応をしていただき、ありがたい。認知度も少しずつ上がってきている。須磨パティオを管理する「OMこうべ」の事業課長代理・藤澤敬徳さんに、

9月11日、インタビューした。

須磨ニュータウンも高齢化が進む一方で、買い物が不自由な人が増えてきているため、「少しでもお手伝いできたら」という声が社内で上がり、神戸市社協を通じて〈わ〉にお願いした。11月と2月のテスト期間を経て、ことし、5月から来年3月まで本格実施している。毎週木曜日の売り出しの日にはサポーター2人が、パティオ1番館のホールに机と案内の看板を出して待機。チラシ30000部（月2回）とパティオライフ12万部（年7回）でPR、周知を図っている。サポーターは午前10時30分から16時まで。須磨区会中心に本部など計12人が登録。1人で買い物ができる人が大半で、サポートが必要な人には、付き添いがついて、サポートを希望す



る人は少ない。待機していても、仕方がないので、サポーターと改善策を話し合い、パティオ内を巡回、重い荷物を持っている人、杖の人、車いすや赤ちゃん連れのママにこちらから、声をかけるようにしてもらった。声掛けは1日に数件から10件、サポート希望はよくて4、5件程度という。

11日が当番の片山茂子さん（音文13期）と廣澤洋子さん（生15期）の奮闘ぶりを拝見した。声をかけても、遠慮される人が多く、苦戦。それでもめげず、95歳のおばあちゃん（写真⑤）に声をかけると、ほどなく打ち解け、お互いに笑顔で20分ほども話し込んでいた。ベビーカーに1歳くらいの赤ちゃんを乗せたママが洋品店で商品を見たそうになっているのを見つけ、サポート「大変、助かりました」と感謝され、館内で体調を崩し、座り込んだお年寄りを見つけ、救急車を呼んだこともある。お2人とも、お年寄りに声をかけ、心を通わせるだけでも、お役に立つのではないかと感じているという。（取材、写真 広報・永野知己）

竹の台小で伝統文化体験

秋晴れの10月1日、「伝統文化体験教室」が西区竹の台小学校で開催され、5年生71人が銭太鼓・大正琴・生け花・着物の着付けの4コースに分かれ体験しました。

10時45分から多目的ホールで児童と対面式。本日のお世話役は、各コースのスタッフ15人・竹の台地域委員会2人の総勢17人です。4つの教室に分かれて、伝統文化の授業を開始。1時間足らずの講



真剣な眼差しで銭太鼓に取り組む子どもたち

義・体験でしたが、子供たちは興味津々で真剣に取り組み、12時からの閉講式で、みんなの前で披露しあいました。着物の着付けのチームは、ちょっと恥ずかしそうに、ファッションショーを展開。



生け花に挑戦する男子

法被にたすき姿の銭太鼓と大正琴は、わずかの時間に一曲をマスターして、見事に演奏して大きな拍手をもらっていました。生け花は個性あふれる見事な作品に仕上がっており、玄関に一週間ほど展示されるそうです。校長先生からも「日本の伝統文化を教えていただき、感謝します」とお礼の言葉がありました。

竹の台小学校では毎年、伝統文化教室を開いており、こうした体験が日本の伝統文化を理解する一助になってくれればと思いました。スタッフの皆さんは、9時ごろには集合し大わらわの半日でしたが、子どもたちの笑顔に疲れも吹き飛んだ様子でした。

（取材、写真 広報・岡本絢一）

しあわせの村まつり—2014—

しあわせの村まつりが7月26日午後3時30分から午後8時30分まで、中央緑道や芝生広場一帯で開催され、家族連れや若者ら25,000人が詰めかけ、大変な賑わいでした。

グループ〈わ〉の担当はわんぱくゾーン。むかし遊び研究会は、水鉄砲、ヨーヨーつり、竹馬などのブースを設け、うらしまたろうは、動物風船と皿回しを準備。子どもたちは、お目当てのブースに行儀よく並び順番を待っていました。本部は、芝生広場にフロアカーリングと輪投げのコーナーを開設。中々の人気で若いパパ、ママさんも目の色を変えて挑戦、楽しい笑い声が響きました。ことし初めての試みの水鉄砲(写真⑤)は150個を用意したそうです。1個作るのに30分。子どもたちは、最初は要領がわからず、苦戦していましたが、スタッフに手ほどきされ、最後は10



メートルも飛ばして満足そうでした。竹馬は大人気で、最初から最後まで十数人が順番待ち。スタッフの女性は「暑くて大変だけれど、子どもの輝く笑顔を見ると疲れも吹き飛びます」といいます。

緑道にはかき氷、綿菓子、タコ焼きなどの屋台が約40店並び、シルバーカレッジの国際友の会はヨーヨーひろばを出店。この日昼から2時間かかって、風船1500個を脹らませたそうです。

この日、空は真っ青に晴れあがり、最高気温は32.6度。緑道入り口にはミスティオアシス2機が設置され、涼しい霧を浴びる人が絶えません。芝生広場のステージでは、各団体が熱気あふれるダンス、和太鼓を披露。ビンゴ大会もあり、午後7時からは「Tomorrow」で200万枚の大ヒットを飛ばした岡本真夜さんのライブ。美しい歌声で、真夏の夜を彩りました。(取材・永野知己 写真・木村茂男)

水の科学館 ものづくりイベント

水の科学博物館で、8月5日～17日までの12日間「ものづくりイベント」が、開催されました。

12グループが日替わりでブースを担当。連日、大勢の家族連れや若者らが詰めかけ、大変な賑わ



いでした。

取材を行った9日は「チームたんすの肥やし」(藤本明美代表・生17)のマグネット帽子づくり。台風11号接近の中で心配しましたが、午後は雨が止んで、家族連れが30数名が来場し、楽しそうに帽子づくりを楽しみました。

材料は家庭で捨ててしまっている、要らなくなったハンカチなどの布きれ、牛乳パック、ペットボトルのふた、マグネットシート、紐、輪ゴムなどです。



スタッフ6名が丁寧に作り方を指導。子どもたちは、楽しみながら、真剣に取り組んで約20分程度で制作していました。

布きれの色や柄とリボンの色によって作った人の個性が出ていて、オリジナルのかわいい帽子が出来たと親も子も共に大喜びでした。

大下昌宏館長は「〈わ〉のイベントは子どもたちに大人気。木工、絵など、ものづくりは夏休みの宿題で、これに頭を悩ませる親からの問い合わせも多く、喜んでもらっている。1日100～150人、学校、児童クラブなど団体さんが入ると200～300人にもなる。〈わ〉さんには昨年の倍もの催しをやっていただき、ありがたい」と話していました。

＝写真左⑤は帽子づくりに

取り組む子どもたち。

⑥は準備したマグネット帽子の見本。

※10日の銀雅は台風のため中止になりました。

(取材と写真・岡本紘一)



●協力サークル うらしまたろう・カーネーション・ケナフ・木工・花実の森・むかしあそび・和楽会・絵手紙・タンスの肥やし・マジック・銀雅・大正琴

下手でいい 下手がいい



絵手紙グループ

ボランティア最前線

下手でいい、下手がいい。誰でもが、気軽にできて、楽しく、奥が深いー。絵手紙の真骨頂だそうである。

8月12日、水の科学館での「ものづくりイベント」シリーズの

絵手紙教室に取材にうかがった。午前10時から午後3時まで開かれ、夏休み中の親子連れ、中学、高校生、若いカップル、障害者らが次々に訪れる。グループ〈わ〉文化部会の「絵手紙」代表の浅野禮子さん(国際5期)、岡崎ヒロミさん(福祉7期)、山田淑子さん(食文10期)は交代で昼食をとるほどだ。

ある家族連れは「おばあちゃん、ゆっくり元気になってね」と絵手紙に書いた。77歳のおばあちゃんは重篤で回復が望めず、「早く良くなってね」とは書けな



いのだろうか。そして別に「パパがんばって」とも。日ごろ、家族のために一生懸命、働く父親へのエールだろう。この家族の、相手を深く思いやる心が痛いほどわかる。

◆顔生き生き、絵筆持つ◆

どの子も、最初は「どう描こうか」ともじもじしているが、いざ描き始めると、顔がいきいきと輝き、楽しそうになる。自分で選んだ額縁代わりの台紙に作品を貼ると、一層、見栄えが良くなり、にっこりとほほ笑んで、大切そうに持ち帰る。

午後からは近くの障害者施設・神戸光有会の通所者3人が職員2人に付き添われてやってきた。浅野代表らとは顔なじみでニコニコと挨拶を交わす。1人は「夏だから柚子にする」と2、30分で仕上げた。上手なものだ。1時間、粘って描き上げた人もいた。

◆お手本、ハガキなど用意◆

浅野代表らは、絵手紙の手本3、40枚、はがき、手作りの色とりどりの台紙約80枚、絵筆、絵の具、水入れの牛乳パックなどを用意してきた。手本は夏らしくヒマワリ、トマト、トウガン、柚子など。参加者が思うように描けるよう気を配り、アドバイスは控え目。子どもたちは頭が柔らかく、発想が素晴らしい。「自分たちも遊んでもらっている。楽しませてもらっている」感じだそう。

絵手紙グループは平成12年結成、メンバーは5人。5期生の水彩画グループが絵手紙も勉強し、須磨区の老人保健施設でボランティアを始めた。口コミで活動が知られ、現在は福祉施設など7か所で活動している。先の光有会は昨年、月に1回、第3水曜日の午後2時から3時まで教える。最初は、1人か2人の参加者だったが、今は6、7人が定着している。休もうものなら「絵手紙があるから施設に通っているのに」といわれ、すごく励みになるという。

＝写真は8月12日水の科学館で

(取材・写真＝広報・永野 知己)

ボランティアの心

を訪れた際、日本人医師・吉岡秀人先生にお会いしたことでしょう。日本ならば立派な病院で活躍されておられたであろうに、日本とは大違いの生活環境の中、全くの無報酬で一心に貧しい人々の医療に取り組んでおられる姿を拝見し、私は胸に熱く込みあげる気持ちを抑えることができず、泣いてしまいました。聞きますと、世界大戦時にビルマの人々が日本兵の飢えを助けてくれたお返しだということです。

もう一つは「花山梅林」です。K S C 9期生が北区・花山小学校裏の斜面を開墾。6年生の卒業記念に少しずつ梅の植樹を続け今や800本になりました。下草の除去から施肥、水やり、剪定まで、すべて会員の手でやっています。「神戸一の梅林にしよう」と発足時に笹井俊司さんが唱えたスローガンがようやく実ってきました。

このほか、国際車椅子テニス大会、手話コース、小学校での伝承文化教室など、さまざまな活動を取材しますが、どれも心打たれるものばかりでした。3年間、広報のお手伝いをして皆さんの活動を客観的にみる経験をさせてもらい、”ボランティアの心”とは何か、少しは掴めたような気がします。(宮里寿子・国9 北区会)

車いす選手の介助に活躍

ボランティア最前線



24年4月19日、
車椅子テニス大会
会を取材。優勝大
手と宮里さん

国際車椅子テニス大会が4月9～12日、足尾選手が参加して三木市の足尾公園として北北の村で開催されました。この大会には(わ)の国際部会の9年時から、北区会が7年前から協力。選手の介助・送迎などのボランティアをしました。大会場を回ってみました。

実行委員の土井昭宏さん(国際部)の紹介で、会本部員・中野昭和さん(アテネ五輪出場)に会い、「(わ)の皆さんは、大会運営のために頑張っています。土井さんにももう9年とお世話になっており、大変感謝しています。」

広報活動の中で考えたこと

ボランティア…それはとても崇高な精神であると思います。これまで、幾つかのボランティアに参加した中に「ミャンマー支援」「花山梅林」「有馬ガイド」があり、また(わ)の広報委員として、いくつかのイベントも取材したことがあります。いずれも成し遂げる、成立させるには、資材や資金の調達、賛同者の確保、専門知識などそのご苦労は計りしれません。でも、中には「好きなことだからやってるのよ」と気軽に答えて下さる人もあり、これも活動を続ける大きな条件だと思います。

こうした経験の中で最も感動したこと、そこにこめられた”ボランティアの心”を挙げるならば、ミャンマーを支援しているグループと一緒に現地

12月6日に銭太鼓「百人打ち」大会

楽友クラブ銀雅(重松豊彦代表)が、12月6日(土)午後1時から、しあわせの村研修館ホールで第9回銭太鼓交流会「百人打ち」を開催します。児童から高齢者まで100人以上が出演。本年は南淡路のグループも参加し、新作の披露も含め26曲の銭太鼓を演技します。どなたでも観覧出来、入場無料。問い合わせは、重松豊彦(078-811-5814)まで。

ボランティアスタッフ募集

●滝谷ホームの見守り 軽度知的障害者施設・滝谷ホーム(長田区滝谷町)で、夜間、入寮者のお手伝いをしませんか。月・火・水は20時～9時。土は17時～9時。ホームの生活指導員から引き継ぎを受け、翌朝の起床・食事・出勤まで見守るのが仕事です。交代制で月1～2回担当。交通費は出ないが1回6,800～8,000円の手当があります。神鉄長田駅から8分。市バス150系統滝谷町すぐ。駐車場あり。問い合わせはグループ(わ)北村まで。

長田区会が病院の植栽管理

市立西市民病院(長田区)から花壇の植栽管理をお願いしたい、との要請があり長田区会が協力することになりました。作業は9月から週1回。1階玄関前及び周辺の花壇を担当します。メンバーは、藤田



西市民病院玄関前花壇

忠之区会長(福13)、山下稔子(福15)・北宏美(美16)・太田治彦(生17)さんの4人で、池田環境部会長、堺理事長、四方理事も応援に入ります。交通費が出ます。協力して下さる方は、グループ(わ)(078-743-8101)まで。

初参加の芸工大生が奮闘

かえっこバザールでは、初参加の神戸芸工大が、「おばば・おじじレター大作戦」のブースを開設。8人の女性スタッフは子供たちの呼び込みに大わらわでした。敬老の日にちなんで、祖父母にハガキのメッセージを出そうというもので、子供たちは「おばばだいすき」「じいちゃんありがとう」の文字にハートや似顔をあしらったカラフルなハガキが次々に仕上が



り、「できたよ!」とっこり。この日は30人が参加してくれました。スタッフは「初めての体験だけど、子供たちがとても喜んでくれ、私たちも嬉しかった」「人集めにとまどったが、いい経験になった」と話していました。引率のかわい・ひろゆき教授は「こんな大勢が集まる会場で、活動できてよかった。次回も参加したい」と意欲的でした。芸工大とは6月の講演会がきっかけで、かえっこバザールに仲間入りしてくれることになり、常盤大と共に若いスタッフで運営の道ができました。かわい教授は、来年度の村まつり、工作塾などへの参加にも乗り気で、〈わ〉とプランを考えることになりました。(広報委員・南形徹)

雨でも元気に昆虫採集



バッタをとった、セミも捕まえたよ——8月2・3日の両日、夏休み「昆虫採集と標本作り」教室(写真⑤=中屋好生

撮影)がしあわせの村で行われ、82人の子どもたちが参加しました。あいにく雨が降ったりやんだりのお天気でしたが、かっぱを着用した子どもたちは、虫取り網を片手に元気よく昆虫採集を楽しんでいました。この日の案内役は、里山和楽会と六甲の自然を守る会のメンバー。神戸いきもの会議の今給黎靖夫先生が、昆虫標本の作り方をアドバイス。子どもたちは、真剣な面持ちで標本作りに取り組んでいました。(広報・井口久美子)

〈仲間と心ひとつに〉学園祭

〈心ひとつに仲間と共に〉をテーマに、第20回学園祭が10月11日(土)に開かれます。ステージでは合唱。ダンス・マジックなど27グループが日頃の練習の成果を披露。中庭や学習室では25グループが模擬店を出して作品や雑貨、うどん、カレーなどを販売。チャリティーバザーも開かれます。ロビーでは絵画・陶芸・写真・書などが展示されます。グループ〈わ〉も、カレー店とクラムチャウダーの店をオープンします。サポート募金も呼びかけます。

さおり・たまもに社協感謝状

神戸市社会福祉大会が9月9日、神戸文化ホールで開催され、さおり・たまも(永野照子代表)に理事長感謝状が贈られました。13年間に亘って、障害者施設利用者が織るさおり織を縫製、商品化しています。おめでとうございます。

ぴかぴか隊に環境奨励賞

環境保全に貢献のあった団体を顕彰する平成26年度「神戸市環境奨励賞」に、グループ〈わ〉から「ぴかぴか隊」(天野征一郎代表)が選ばれました。11月9日(日)に、シルバーカレッジで表彰式が行われます。ぴかぴか隊は、平成23年設立。神戸市のイベント(震災慰霊祭・神戸まつり・ルミナリエ・マラソンなど)の清掃にボランティアとして参加。また、地域の環境改善や清掃にも力を入れています。

増金さんと銀雅が受賞

平成26年度高齢社会フォーラムin神戸が10月30日(木)、国際展示場(ポアイ)で開催されます。その中で、社会活動を実践している個人、団体を顕彰する賞に個人は増金スミ子さん・団体は楽游クラブ銀雅(重松豊彦代表)が選ばれ、午前に表彰式が行われます。増金さんは、一寸奉仕代表として病院での案内、話し相手、その他福祉施設で大道芸(南京玉すだれ・動物風船など)を披露するなど、幅広い活動を行っています。楽游クラブ銀雅は平成12年設立。福祉施設や児童館などへの友愛訪問を長年続けています。

午後、「社会参加を加速させるプラットフォームづくり」をテーマとしたパネルディスカッションに堺汎理事長がパネリストで出席予定です。

WAからのお知らせ



〈わ〉の新旧役員が懇親会

グループ〈わ〉の第6回新旧役員交流会が7月22日、県庁前のパレス神戸で開かれ、赤司松美初代理事長・堺汎現理事長ら41人が参加。夕食を共にしながら、約2時間にわたって旧交を温めました。今回は、東北第5次支援の状況を映像で紹介。

「初めて支援の状況を知った」「映像で見ると分かりやすい」とOBの皆さんに好評でした。そのあとマジックや大道芸の披露もあり、和やかで楽しい交流会となりました。

「ハーモニカドレミの会」誕生

7月から、文化部会に新グループ「ハーモニカドレミの会」（岸名信博代表・食18）が誕生しました。カレッジのハーモニカクラブで施設訪問をし、卒業後も活動したいと思ったことが切っ掛けです。会員は18期生を中心に12人。しあわせの村たんぼぼで、月2回練習をしています。レパートリーは、歌謡曲、童謡、唱歌など4～50曲。「元気に楽しくをモットーに活動していきます」と岸名代表。これでグループ〈わ〉のサークルは62団体になりました。

●滋賀県老人大学OBが来訪

レイカディア大学（滋賀県老人大学）同窓会大津支部から8月7日、「地域活動を活発化したい」との目的で、佐瀬支部長ら3人が来訪。カレッジ系原マネジャー、堺理事長、小畑副理事長が対応しました。見学後、〈わ〉に講師依頼があり、11月22日（土）同支部の講演会に小畑副理事長が出席予定です。

●一ノ谷プラザが臨時休館

台風11号の接近で、8月10日は全面休館となり、地域住民の避難先として須磨区役所が準備をしていましたが、避難者はありませんでした。

11月23日（日）に行われる神戸マラソンで、一ノ谷プラザが10キロコースのゴールになり、控室などに使われるため前日の午後と当日は全面休館となります。問い合わせは、一ノ谷プラザ（731-8353）へ。

●「ぎやらりーわ」アンケートのお願い

会報「ぎやらりーわ」の読者アンケートを、10月末締切で実施します。今回は、無作為に選んだ200人を対象に葉書を同封していますので、葉書が入っている方は必ず返信をお願いいたします。よりよい誌面を目指し、ご意見・提案をおまちしています。

〈わ〉とローンボウル

つづき

大好きなローンボウルを続けながら、3年間〈わ〉の理事を務めてきました。忙しい日々でしたが、サークル活動だけではわからないグループ〈わ〉の様々なボランティア活動の実態を勉強することができました。

シルバーカレッジでローンボウルに接し、卒業後も「タッチャーズ」というチームで週4回練習に励んでいます。メンバー20数人のうち、女性は2人だけ。大事にしてくれるし、ルールも難しくありません。美しい天然芝コートでボールを転がしていると、嫌なこともすべて吹っ飛び爽快な気分になることができます。これまで一番の思い出は、23年に北海道で行われた全国大会に出場。宮崎芳江さん（生12）とペアを組んで優勝したことです。

会員の皆さんが気持ちよく活動できるようにお手伝いするのが理事の責務ですが、こうした実情は本部理事になって初めて知ったことでした。サークル活動との両立は大変でしたが、「理事をやってよかった」と思っています。

（井上千加子・前理事、園15・須磨区会）

編集後記



★戦争の語り部座談会を担当。6人の体験談は、想像以上に悲惨なものでした。「戦争は絶対にしてはいけない」と深く心に刻むと同時に、「今の平和の有難さ」をひしひしと感じました。未来を担う子どもたちへ語り継いでいくには…皆さまの知恵と力をお貸しください。（井口久美子）

★水の科学館で絵手紙グループの取材をしました。「下手でいい、下手がいい」をモットーに自らも楽しみながら、子どもたちに手本を示し、控えめに教えておられるのが印象に残りました。こつこつと、息長く活動しておられる方がたくさんいるのだらうな思ったことでした。（永野知己）

★この3か月間はホームページの見直し計画の作成に始まり、新規ページの内容検討、既存ページの内容見直し依頼、そして入手した情報による更新作業などいずれも新米の担当には手に余るものでしたが、多くの方々のご指導とご支援によりなんとか乗り切れています。（岡本絢一）

グループわ 10～12月のイベント

開催日時・場所	テーマと内容	問合せ先
10月16日(木)9時～ (申込み締切:9月26日)	グランドゴルフ大会(球技場) グランドゴルフを楽しむ 協力:北区会	グループわ 743-8101
11月27日(木)9時40分～ (東お多福山～保久良神社)	秋の森林浴ハイキング 紅葉に魅せられのんびり歩く 協力:森の仲間 (申込み締切:11月10日)	グループわ 743-8101
11月15日(土)	未来館ビオトープ観察会 見つけよう!里山の野鳥たちを 協力:野鳥と自然観察会	こうべ環境未来館 995-3196
10月18日(土)～11月9日(日) こうべ環境未来館	企画展(パネル展示) 里山に棲むカブトムシ 協力:花実の森PJ	こうべ環境未来館 995-3196

ローンボウル大会26チームが熱戦

グループ〈わ〉「チャレンジボウル2014」が9月6日午前9時から、しあわせの村のローンボウルズ場で開かれた。26チーム、52人が参加。2人1チームで各チームが4試合を行うリーグ戦。昨年は雨で大会が流れたため、各チームは「今年こそ」と一投、一投に気合がこもり、白熱した試合となった。朝のうちは晴れ間もみられたが、終了間際の午後16時ごろには雨となり、成績発表と表彰は会場のロビーで行った。日本カナダ会の斎藤キミエさんと阿部博さんのチームが優勝。＝(写真



⓪ 四方久幸撮影) 参加選手は、お互いの健闘をたたえ合い、親睦を深めた。(広報・永野知己)

秋晴れのもと16チームが熱戦

秋のペタンク大会が、9月27日午前9時過ぎから、16チーム32人が参加し、しあわせの村球技場で開かれた。当日、抽選でチームを組むため、最初はお互いの気心がつかめず、戸惑いもあったようだが、試合が進むにつれ、呼吸がぴたりと合うようになった。決勝トーナメントは、抜きつ抜かれつの接戦で、早川重治、上田修次チームが11対10で優勝した。交流トーナメントは上野堯、新井紀子チームが優勝した。当日は、グラウンドが乾いてよく転がり虚々実々の戦い。時には歓声が上がり、なごやかに親交を深めた。(広報・永野知己)

ジョイラックに講演会開催

グループ〈わ〉は、11月18日のジョイラックデーに、下記の講演会を開催します。

① 防災講座【10時半～12時・学習室3、4】

講師は、ひょうご防災特別推進員梶谷義昭氏。来年1月で、阪神、淡路大震災から20年が経ちます。これを契機に、「阪神、淡路大震災の教訓の継承と豪雨災害の備えについて学習します。

② 第3回福祉ボランティア大会【13時～16時20分・学習室5、6】

福祉部会の7グループ(明生園もみじ会・さおり、たまも・信愛ホーム介助・一寸奉仕・クレヨン・あんだんて・エンジェル支援の会)を映像で紹介したあと、明生園もみじ会・一寸奉仕・クレヨン・あんだんてが、歌唱や大道芸、手品や小咄、朗読を披露、会員の交流を深めます。会場前廊下には、活動風景の写真なども展示します。入場無料。カレッジ生を始め大勢の参加をお待ちしています。

③ 学習支援の集い【13時～・学習室1、2】

講師は、神戸市発達障害ピアカウンセラー(精神保健福祉士)・笹森理絵氏。発達障害(ADHD)を持つ当事者であり、また3人の子どもたちもそれぞれに発達障害を抱えている。当事者、保護者、支援者の視点から、発達障害の特性や理解、対応方法を分かりやすく解説し、全国で公演活動・研修講師として活躍中。テーマは未定です。

※上記お問い合わせはグループ〈わ〉(743-8101)まで。

トピックス

かえっこパズルに集まったおもちゃなど(右下)とカーネーションのサンバイザー作り(9月7日)



水の科学館〈わ〉で遊ぼう (8月5日~17日) SCクラブ大正琴の演奏体験に挑戦する子どもたちとKSCマジッククラブの妙技



しあわせの村で開かれた夏祭り
昔あそびのコーナーとウらしまたろ
うの皿回し(8月5日)



写真=木村成男、四方久幸、岡本紘一、永野知己



代表 森下延市(福18期)

シルバーカレッジ関係者の皆さま ご利用をお待ちしています。
ご予約の際、お申し出下されば特別価格でご提供します。

- お料理 特別価格の一例(飲み放題込)
- | | |
|---------|-------------|
| 陶コース | 5400円→4400円 |
| 大桶コース | 5400円→4400円 |
| 寄せ鍋コース | 5400円→4400円 |
| てっちりコース | 6480円→5480円 |
- お昼の宴会 3000円から(要予約, 税別)
ご予算に応じます



阪急・JR三宮から北へ3分

瀬戸内魚料理
かねも

☎331-3911